

講義科目名称	応用言語学研究 IV	副題	Individual Differences in Second Language Acquisition
英文科目名称	Applied Linguistics Studies IV		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
神谷 信廣			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている

授業の内容(概要) 第二言語習得の個人差に関する様々なトピックを理解し、専門的な学習の基礎知識を身につける。授業形式は、反転授業の形式を取り、課題として教科書を読み、担当者がプレゼンテーションを行い、その内容について受講者同士で議論を深めたり、教員の講義を受けたり質疑応答をしたりして、双方向あるいは多方向に行われる授業を展開していく。(上記「授業種類」に記載されているように、この授業は「実務家教員」による授業である。)

授業の目的 第二言語習得の個人差に関する様々なトピックについて考察し、理解を深める。第二言語習得に対して、個人差が与える影響に関する研究課題を見つけ出す力を養う。

到達目標 第二言語習得の個人差に関する様々なトピックについて学がごとによって、個人差が第二言語習得に与える影響について説明することができるようになる。授業で取り上げる代表的な個人差の要素を、自分自身の英語学習やティーチングに活用できるようになる。

授業計画	第1回 Introduction どのような個人差がどのように、第二言語習得に影響を与えるかを学生相互で話し合う。その後、コース全体の概要と、それぞれの授業で扱う内容の概要を説明する。最後にプレゼンテーションの割り当てを決める。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第2回 Introduction: Individual differences 第二言語習得における個人差に関して、担当の学生がプレゼンテーションを行い、授業で扱う個人差が、第二言語習得にどのような影響を与えるかを学生相互で話し合う。また、第二言語習得における個人差の研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第3回 Personality 個人の性格が、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、MBTIという性格診断テストの簡易版を受け、その結果から、自分の性格が第二言語習得に与える影響について話し合う。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第4回 Language aptitude 言語適性が、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、言語適性の研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第5回 PLAB PLABと呼ばれる、言語適性を測定するテストを全員で受験する。その結果をシェアし、言語適性テストから分かる言語習得の得意な人の特徴、及び言語適性テストの限界点について話し合う。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第6回 Motivation 動機付けが、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の動機付け研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第7回 Learning styles and cognitive styles 学習スタイルと認知スタイルが、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の学習スタイルと認知スタイル研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第8回 Learning strategies and self-regulation 学習ストラテジーが、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の学習ストラテジー研究の歴史、成果、問題点などに加えて、より包括的な概念である自己調整について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第9回 Other learner characteristics 第二言語習得に影響を与える個人差として、創造性、不安、コミュニケーションに対する意欲、自尊心、信念について担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、これらの中で学生に興味があるものを選び、その研究成果や問題点について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第10回 Age and critical period hypothesis 第二言語の学習を開始した年齢が、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得における年齢の研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第11回 Genie アメリカで幼少期に言語に触れずに過ごしたジーニーという少女のドキュメンタリーフィルムを鑑賞する。その後、研究と子どもの養育を両立することの難しさ、研究倫理などについて討論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第12回 The psychology of instructed second language acquisition 1 暗示的教授、明示的教授、暗示的知識、明示的知識が、様々な第二言語の教授法の中でどのように捉えられてきたかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、暗示的知識と明示的知識に関する研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第13回 The psychology of instructed second language acquisition 2 流暢性と自動化が、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、流暢性と自動化に関する研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第14回 Final presentation 学生個人個人が、自分が一番興味を持った個人差に関するテーマに関してプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、プレゼンテーションの方法と内容に関して、フィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第15回 Conclusions 本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのかを話し合う。またこれからの個人差の研究の方向性と、最後の課題であるreflection

テキスト Dörnyei, Z., & Ryan, S. (2015). The psychology of the language learner revisited. New York, NY: Routledge.
Dörnyei, Z. (2009). The psychology of second language acquisition. Oxford, UK: Oxford University Press.

テキスト購入方法 各自購入。

参考文献 特になし。

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 1. Presentations: 15% 2. Reflections: 15% 3. Comments on reflections: 5% 4. Reading reports: 15% 5. Comments on reading reports: 5% 6. Final presentation: 15% 7. Reflection paper: 30%
教員への連絡方法	メールを使用する。文面は英語で書くこと。
履修上の注意	授業は英語のみを用いて行う。
授業外学修情報（予習復習）	<p>事前学習：次回の授業で学習する、教科書の指定された箇所を読む。プレゼンテーションを行う学生は、その準備を行う。</p> <p>事後学習：授業の振り返りを英語で書き、オンラインに投稿する。他の学生は、それに対するコメントを投稿する。また毎週のテーマに関連した研究論文を1本読み、その概要と批判を投稿する。他の学生は、それに対するコメントを投稿する。</p> <p>1回の授業に対して、合計約2時間の予習・復習を行うことが求められるので、1学期の授業外学修時間は合計30時間となる。</p>
学生へのメッセージ	毎時間の予習、復習が大切です。